

OfByForコラム  
地域の  
地域による  
地域のための  
Something  
NEWS

第17回

能登が教える地域性の過現未  
——「少子高齢化」と「好風況」が同居する地

一般社団法人 洗楓座  
一般社団法人 e f c o . j p  
代表理事 佐藤建吉

▼輪島と能登半島  
石川県輪島市を中心とする能登半島を最近3回訪ねた。これまで全部で4回訪ねたことになる。永平寺を訪ね、能登半島一周をしたのが40年前。2回目は、当地の農林水産品を首都圏に調達するため現地視察を行った(本紙コラム③)。

れた日本の二つの現状を、確に表現している。一、当初1年程度、校舎31年の歴史があり、4800名の卒業生を出した。生徒数が630人の年度もあつたが、廃校時は20人で、1&2学年、3&4学年、5&6学年の複式学級で教育されていた。現在は、5校が2校に統合され、生徒は通学バスで登下校する。

3回目は、当地の遊休施設の調査と、酪農や農産品、ワイン工場などを訪問した。4回目になる今回は、廃校小学校と北前船、そして現在開催のアートプロジェクトと発電風車サイトを訪ねた。今回の現地調査でも感じたところだが、この地の気候風土や地理環境が、暮らしや産業、文化と歴史に大きく影響を与えている。半島という地理的な条件が生み出した、外部との関係性構築のための独特な手段のひとつとして、北前船が挙げられる。本稿では、そうした地域のイシューについて記したい。

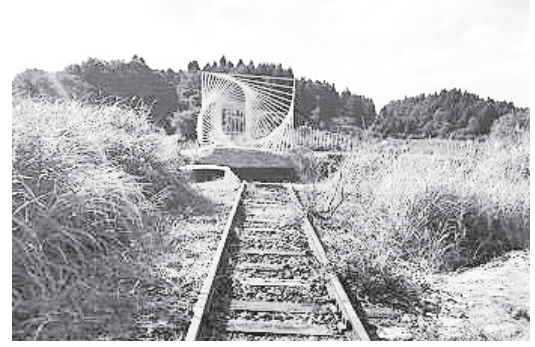
当時の趣を残している。黒島にも当時の面影を残す住居群が重要伝統的建造物群保存地区として保存・整備されている。船主の角海家の住居が、10年前の輪島地震で被災したので、復元建築が市有財産として整備保存されている。

▼辺地の地域性が  
つくり出した特徴  
この地はとりわけ、「少子高齢化」が進んでいる。この言葉は、使い習わき

戦後の団塊世代、所得倍増計画、東京オリンピック。これらは磁石が釘を吸着するように、東京に地方の若者を吸着した。能登半島も若者を東京に「供給」した。結果として、若者世代がいなくなり、地元では出産養育する親世代がいなくなり「少子高齢化」の典型地となった。今回訪ねた廃校小学校は、旧・輪島市立七浦小学校である。この地区は元は門前町であつたので、小学校は門前町立であつた。輪島市と合併し、その年度末の2006年3月に廃校となつた。そ



奥能登国際芸術祭2017の作品(左)と、珠洲風力発電所(向こうの山並みにも風車が見える)



七浦は門前町にあるが、その20キロ南にあるのが黒島海岸である。その地こそが、「北前船」の寄港地で、船主や船頭の居宅もあつた。黒島町も門前町であるが、江戸時代は徳川の天領であつた。曹洞宗の総本山の総持寺があつたが、横浜市鶴見区に移転したので、いまは総持寺祖院となつている。

ろにあるウィンドファームを見に、風車の足元までレンタカーで出かけた。珠洲風力発電所であり、1.5メガワットの風車が10基設置されている。現地からは二つ向こうの山並みにもウィンドファームが見えた。それも同じ系列のウィンドファームであり、20基の構成である。全基が回っている景色は壮観であり、風況がよく風力発電に適地であることを如実に示している。

▼北前船と  
総持寺祖院  
七浦は門前町にあるが、その20キロ南にあるのが黒島海岸である。その地こそが、「北前船」の寄港地で、船主や船頭の居宅もあつた。黒島町も門前町であるが、江戸時代は徳川の天領であつた。曹洞宗の総本山の総持寺があつたが、横浜市鶴見区に移転したので、いまは総持寺祖院となつている。

▼消えた鉄道の残照  
いま珠洲市では、トリエンナーレの「奥能登国際芸術祭2017」が行われている。そのテーマにも辺地や廃墟にアートを重ねる視点があつた。能登半島には、その名のとおりの「の鉄道」が走っている。現在は七尾から穴水までの、33キロに過ぎないが、2001年までは穴水、輪島、2005年までは穴水、蛸島までの路線もあつた。

前述の人口減、産業の衰退で経営困難から廃線となつた。その形見が駅舎として一部残っているところがある。また、線路上に車両が置き去りにされているものもある。産業遺構といえる。鉄道の残照としたい。

廃線にすると、鉄道を再び敷設することはできないので、社会資本として鉄道を消さない、残すことが「政治OfByFor地域」であること

連載・政策・イベント

Or地域”であること